

広島県地震被害想定調査検討委員会（第3回） 議事要旨

1 検討会の概要

日 時 令和7年3月24日（月）14時30分～16時30分
場 所 広島県庁 北館4階 防災会議室（オンライン併用）
出席委員 別紙出席者名簿のとおり。

2 議事要旨

（1）第2回検討委員会における指摘事項への対応等

令和7年1月9日に開催した第2回検討委員会における各委員からの提言への対応案について、事務局から説明を行った。

（2）地震動の予測手法

事務局から、地震動の予測手法について説明を行った。

【委員からの主な意見】

- メッシュ番号に対応する地震波の速度構造を報告書へ記載すべきではないか。
- どこが軟弱地盤であるか分かりやすくするため、VS30のマップを作成すべきではないか。

（3）津波浸水想定 の 計算条件

事務局から、津波浸水想定における計算条件等について説明を行った。

【委員からの主な意見】

- 広域地盤沈下を考慮に入れて計算しているとのことであるが、実際にどのくらい地盤が変化しているかについて図示すべきではないか。
- ネスティングの手法を明示すべきではないか。
- 浸水深が何cmであればどのようなことが起こるかについて、可能な範囲で、場所ごとに検討を行うべきではないか。
- 津波が来た場合にどれくらいの時間に対し備える必要があるのかという、BCPの観点から、冠水した状態から水が引くまでどれくらい時間がかかるかを考える必要があるため、浸水が継続する時間について、算出することを検討すべきではないか。
- おそらく津波高が最大になるのは南海トラフ地震だと思うが、その他の地震による津波の方が到達時間が早くなるということも想定されるので、津波の到達時間が早い箇所等について情報提供が必要ではないか。

(4) 被害想定予測手法

事務局から、被害想定予測手法等について説明を行った。

【委員からの主な意見】

- 住宅の耐震補強の取扱いについて、過小評価にならないような取扱いを検討すべきではないか。
- 津波の流向を地図上で表現する等、県民がリアルに津波による浸水を想像できる地図表現を検討すべきではないか。
- 上水道と下水道で断水の想定を分けて行っているが、平成 30 年 7 月豪雨の際には、下水道が使用できなくなったために、上水道は使用できたが断水にせざるを得なかったというケースがあったため、そのような可能性についてメッセージの発信を検討すべきではないか。
- 道路被害の算出における土構造物の取扱いについて、対策工事が実施されている場合には被害が発生しないと仮定しているとのことであるが、具体的な対策工事等の内容を記載すべきではないか。
- 芸予地震等の際に、実際に、高規格道路や主要道路は通行できるが道幅の狭い道路や古い路地は通れなかった等の事例があるのであれば、資料に入れるべきではないか。

以上